

生活期リハビリテーションの訓練コードの標準化に向けたデルファイ調査 調査結果といただいたコメントに対する回答

2024年3月1日

デルファイ調査の概要

デルファイ調査とは、疾患別ガイドラインの作成の際によく用いられてる方法で、答えが出にくい問題に対して、専門家の意見を集約することで一定の見解を明らかにする方法です。今回、RAND/UCLA の適切性調査の方法に基づいて 15 名のエキスパートの先生方からリハビリテーションの訓練コードに関する適切性について回答をいただきました。

適切性と合意の基準

本調査では、RAND/UCLA Appropriateness Method に基づいて、15 名のエキスパートパネルの回答の中央値が 7~9 の場合を「適切」、中央値のある 3 分位以外の回答数（外れ値）が4 以下を「合意」、5 以上を「不合意」としました。

なお、赤字は回答が「1」、青字は回答が「3」のコメントを示します。

第 1 回調査結果

大項目について

1. 運動療法：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	2	3	8	8.5	2

コメント

- ・教科書的に、運動療法には、関節可動域訓練、筋力増強訓練、持久力訓練のほかに、座位・立位訓練、歩行訓練、バランス訓練など各種訓練が含まれます。このなかから、歩行訓練など独立して項目を作るのであれば、運動療法(項目？と？を除く)としてはどうですか？
- ・自主トレ指導は含まれますか？
- ・例えば、ACSM では exercise のなかにストレッチも入れています。これは関節可動域訓練とも異なるので、別枠にするか、「関節可動域訓練・ストレッチ」とした方が良いと思います。
- ・また、機器を使った訓練だと、関節可動域訓練と筋力増強訓練と持久力訓練が全て含まれるものが多数ありますので、その取り扱いに工夫が要ります。例えば、上肢エルゴメーター訓練なら、肩関節のストレッチになりますし、負荷を強くしゆっくり回せば筋力増強、逆なら持久力訓練、パーキンソンの方なら協調性訓練になります。小項目の立て方にもよりますので、一孝がいますと考えます。15 の上肢を入れるのも必要か議論が必要です。バランス訓練は運動療法か基本動作訓練かは一度議論しておいた方が良いと考えます

コメントに対する回答

多くの示唆に富んだコメントをありがとうございます。本研究事業における運動療法の範囲についてはワーキンググループでも何度も議論となったところです。生活期リハビリテーションの実態調査を念頭に置いてあるため、集計できる体制とするため基本動作訓練や歩行訓練を独立した項目としております。含める項目や除く項目については、手引きを作成する際に詳細を記載する予定です。また、ストレッチについては「関節可動域訓練」の小項目に該当するかと考えられますので、こちらも手引き作成の際に参考にさせていただきます。訓練コードの選択に際しては、訓練の主目的に焦点を当てていただくことを想定しています。複数の目的を含む場合が多いと思いますが、訓練時間も調査することを想定していますので、主目的に合わせて選択といった形式が妥当かと考えています。基本動作訓練の座位訓練と立位訓練をそれぞれ座位保持訓練、立位保持訓練に変更し、バランス訓練は運動療法として残す方針としています。

2. 物理療法：適切かつ合意 ⇒9. 物理療法に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	2	0	1	2	10	9	2

コメント

- ・項目の順番を変えるべきである。歩行訓練の後に。
- ・リハの項目としては可ですが、介護保険分野においてはほとんど実施されていません。
- ・場所によっては、温泉と水治療法等が行われます。また、ハドマや緊縛帯に代表される圧迫治療もかなり広く行われています。

コメントに対する回答

大項目の順番について全体を調整し変更しました。物理療法は8. 摂食嚥下訓練と10. 支援・調整の間に変更し、「9.物理療法」としました。

水治療や圧迫療法についても当初は中項目に入れておりましたが、ワーキンググループで議論を重ねる中で、どこまで細分化するかが課題となりました。中項目の項目数が多すぎると実態把握が非効率的になることが考えられたため、水治療法や圧迫治療は、「その他の物理療法」に含めることとしております。

3. 基本動作訓練：適切かつ合意 ⇒2. 基本動作訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	3	0	2	2	8	8.5	3

コメント

- ・順番を物理療法の後に。
- ・訓練→練習が適切かと思えます。
- ・一般的には、基本動作訓練は運動療法の範囲に含まれるものと認識しています。
- ・座位、立位訓練と臥床状態での側臥位や腹臥位への体位変換は基本動作訓練というより、新たな大項目立てをして、姿勢変換訓練などとした方が生理学的に正しいと思えます。起立訓練は座位から立ち上がるという意味で基本動作訓練か運動療法か議論して下さい。

コメントに対する回答

順番については、1. 運動療法と3. 歩行訓練の間「2.基本動作訓練」に変更しました。基本動作訓練の位置づけについてですが、日本リハビリテーション医学会のコアテキストなどでも運動療法に含まれることは承知していますが、本研究事業の目的が生活期におけるリハビリテーションの実施状況の実態解明としております。そのため、基本動作訓練や歩行訓練は別項目として抽出したい意図があるため、大項目としております。また、姿勢変換訓練や姿勢保持訓練といった分類もLIFEを参考にしていた初期の分類では採用していましたが、姿勢変換には寝返りや起き上がり、立ち上がりまで含まれる上、姿勢保持では座位保持・立位保持・膝立ち保持・片足立ち保持なども含まれます。分類を分かりやすくするため、ABMS-2を参考に中項目の5分類としております。

4. 歩行訓練：適切かつ合意 ⇒3. 歩行訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	3	0	1	3	8	8.5	3

コメント

- ・順番を物理療法の後に。
- ・屋内・屋外、応用歩行、階段昇降などの小項目があることを前提に可。
- ・訓練→練習が適切かと思えます。
- ・一般的には、歩行訓練は運動療法の範囲に含まれるものと認識しています。
- ・下肢の装具療法・義足による歩行訓練は中項目で必要ではないでしょうか。

コメントに対する回答

順番について、2. 基本動作訓練と4. ADL訓練の間「3.歩行訓練」に変更しました。基本動作訓練と同様に、歩行訓練が運動療法に含まれることは承知しておりますが、本研究事業の目的に鑑みまして、実態調査において歩行訓練の件数が抽出できるように独立した大項目としております。義足による歩行訓練についてはご指摘の通り、中項目として「装具や義足を用いた歩行訓

練」を検討しておりましたが、ワーキンググループでの検討によって装具や義足の着脱は更衣訓練となるのか、杖や歩行器などを用いた歩行訓練を中項目として独立させるかなど議論した結果、義足を用いた歩行訓練は「その他の歩行訓練」に含めることとしました。訓練と練習の用語についてですが、本研究事業では日本リハビリテーション医学会のコアテキスト等に基づいて統一を図っておりますので、「訓練」としています。

5. 高次脳機能訓練：適切かつ合意 ⇒6. 高次脳機能訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	2	0	3	2	8	8.5	2

コメント

- ・順番を言語聴覚機能訓練の後に。
- ・リハの項目としては可ですが、介護保険分野においてはほとんど実施されていません。環境整備が主となります。
- ・他の大項目における中項目の内容は具体的になっています。しかし、この中項目だけは目的に訓練をつけただけで具体的な内容ではありません。生活期での高次機能訓練とすると、他の中項目のように、机上訓練、集団訓練、コミュニケーション訓練、映像・視覚訓練などに分類することもご検討下さい。

コメントに対する回答

順番について、5. IADL 訓練と 7. 言語・聴覚訓練の間「6.高次脳機能訓練」に変更しました。

中項目の内容を再度精査して整理しましたので、高次脳機能訓練の中項目の内容をご確認お願いします。「机上訓練、集団訓練、コミュニケーション訓練、映像・視覚訓練」などについては、手引きを作成する際に説明として記載することを検討いたします。

6. ADL 訓練：適切かつ合意 ⇒4. ADL 訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	1	3	11	9	0

コメント

なし

7. IADL 訓練：適切かつ合意 ⇒5.IADL 訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	-----

0	0	0	0	0	1	1	4	9	9	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

コメント

- ・小項目として、車の乗降練習は含まれますか？
- ・生活期に障害児が含まれるなら、就労・就学訓練（「のための」は不要と思います）が良いと考えます。

コメントに対する回答

「車の乗降練習」については、「その他の IADL 訓練」に含まれることを想定しています。就学訓練については、本研究事業が介護保険を想定していますので、障害児を含むことは想定していません。

8. 言語・聴覚機能訓練：適切かつ不都合 ⇒ 7. 言語聴覚訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	2	3	2	1	6	7.5	6

コメント

- ・機能訓練という記載が限定的であり、活動・参加レベルの訓練を含めない印象を受ける
- ・順番を変える。
- ・「聴覚」機能訓練を生活期のリハビリテーションで行っている認識がありません。「言語聴覚士」からきていると思いますが。「コミュニケーション」のような用語の方が網羅的なように思います。
- ・「言語・聴覚療法」または「言語・聴覚訓練」
- ・言語訓練は主に失語症に対する訓練を想定されているのでしょうか
- ・生活期で広く行われているコミュニケーション訓練と歌唱（カラオケ）訓練の追加をご検討下さい。

コメントに対する回答

いただいたコメントを参考に、機能を除外して順番を変更した上で「7.言語聴覚訓練」に修正しました。

コミュニケーション訓練については、訓練コードの作成当初は検討していましたが、ワーキンググループでの検討の結果、コミュニケーションの概念が広すぎて訓練コードの項目としては分類が難しくなることが指摘されたため、「言語聴覚」と整理しました。

言語訓練については、中項目の内容となりますが分かりやすくするため「失語症に対する

訓練」に変更しました。

コミュニケーション訓練や歌唱（カラオケ）訓練などは、「その他の言語・聴覚訓練」に含むことを検討させていただきます。手引き作成の際に説明文を入れることを検討いたします。

9. 摂食嚥下訓練：適切かつ合意 ⇒ 8. 摂食嚥下訓練

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	3	2	10	9	0

コメント

- ・口腔機能評価は含まれますか？ 歯科衛生士や管理栄養士の取り組みは対象外でしょうか？

コメントに対する回答

将来的には歯科衛生士や管理栄養士の取り組みも検討していますが、本研究事業ではリハビリテーション治療の範疇を想定しています。

10. 支援・調整：適切かつ合意 ⇒ 10. 調整・支援に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0	1	1	3	4	5	8	3

コメント

- ・リハビリテーションマネジメントにおいて、「連携」も重要な支援内容と考えるが、ここに含めてよいものか判断しにくい
- ・調整は支援に含まれるのではないですか？支援(調整を含む)、あまり変更できないのであれば、少なくとも、調整・支援。
 - ・少しは細分化されていても良いと思われる
- ・各項目とも説明文が付けられると思いますが、支援・調整が誰に対してどのようなことをするのかの例示が必要ではないでしょうか？広い意味でいうと訓練も支援に含まれるという理解もできますので、言葉の定義があったらよいと考えます。説明会でも話題になりましたが、「訓練」という言葉を PT 協会が用いていないことは承知していますが、この点についても同様です。
- ・1-9と比較して、少項目のボリュームが非常に多い。介護保険分野においては、この項目が主体であり細分化が必要です。
- ・住環境適応訓練の追加をご検討下さい。

コメントに対する回答

多くの示唆に富んだコメントをありがとうございました。デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、コメントに基づいて「調整・支援」に変更いたしました。広辞苑の定義では、調整は「調子を整え過不足をなくし、程よくすること」、支援は「支え助けること、援助すること」とされております。リハビリテーション医学会のコアテキストではリハビリテーション支援として、環境調整や社会資源の活用などをあげております。連携については、本研究事業では訓練コードを標準化することを目的としているため、介護支援専門員等への情報提供は含みますが、サービス担当者会議への参加自体は訓練コードには含まれないと想定しています。

また、本研究事業では訓練コードの標準化と分類を目的としたため、「調整・支援」事態を独立した項目とするかどうかについてかなり議論となりました。生活期では活動と社会参加を促進するため「調整・支援」は欠かせない項目と判断され、訓練コードとして残すこととなりました。分類の細分化については中項目・小項目において対応することを想定しています。また、手引きを作成する際に、「訓練」「支援」「調整」の定義の説明を盛り込み、誰に対してどのようなことをについては、小項目で検討させていただきます。

大項目全般について

- ・大項目の用語・分類については、良いと思います。異論ありません。
- ・「言語・聴覚機能訓練」ところが引っかけられます。おそらく PT、OT、ST という専門職による役割分担よりも、訓練の目的による分類に重きを置いていると思いますが、「言語・聴覚機能訓練」のみ ST の専門領域を確保している印象です。「コミュニケーション訓練」のような用語の方が、PT、OT 全てが関われるのではないのでしょうか？「言語・聴覚機能訓練」では ST のみしかチェックしないように思います。
- ・リハ計画書では、リハ専門職以外の関わりもプログラムとして記載しています。LIFE への取り込みを想定すると、項目が足りません。（本研究の目的が、リハ専門職に限定している場合にはご放念ください）
- ・運動療法と基本動作訓練、歩行訓練を区別するかどうかは判断が難しいところですね。
- ・先にも書きましたが、意識障害で寝たきりの方や頸髄損傷の方では体位変換が必須となります。また、座位と立位への姿勢変換も非常に有効な訓練で、これをどの項目にするか微妙です。大項目かも含めてご検討下さい。また、生活期では広く風船バレーボールのようなレジャースポーツ的な訓練（？）やラジオ体操を取り入れているところがあります。また、様々なスポーツやパラスポーツ指導的な取組もしています。テレビゲームも人気があると聞いています。これらの生活期に比較的特有な訓練も誘導的な項目として作っても良いかもしれません。

中項目について

11. 関節可動域訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	1	1	2	11	9	1

コメント

- ・ストレッチの追加を御討議下さい。

コメントに対する回答

ワーキンググループで検討した結果、ストレッチは小項目を検討する際に追加することを議論させていただきます。

12. 筋力増強訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	2	4	9	9	0

コメント

- ・他の項目に比し、増強という言葉の使用することで対象を制限する可能性はないでしょうか。

コメントに対する回答

増強という用語の意味としては、「増して強くすること（広辞苑）」とあります。今回、日本リハビリテーション医学会のコアテキストと用語を合わせるため、「増強」といたしました。

13. 持久力訓練：適切かつ合意 ⇒持久力（心肺機能）訓練

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	3	1	3	3	5	7.5	4

コメント 持久力（心肺機能）訓練

- ・いろいろな言い方があるので、「持久力訓練」と統一して良いと思います。
- ・リハビリテーション医学医療テキストには、（心肺機能訓練）も併記されています。
- ・全身持久力訓練、とする方がよい気がします
- ・持久力訓練は、心肺機能訓練や有酸素運動と同義語であるが、別々のものと理解している人もいます。
- ・分類を正確にしてもらうため、何らかに説明が必要だと思います。"

- ・筋持久力か、有酸素運動か
- ・この項目が必要あるのか。必要であれば「耐久性向上訓練」？

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、多くのコメントをいただいたため対応についてワーキンググループで議論いたしました。日本リハビリテーション医学会のコアテキストおよび総合力がつくりハビリテーション医学・医療テキストに合わせて、「持久力（心肺機能）訓練」とさせていただきます。訓練コードの手引きを作成予定ですので、そちらで有酸素運動や筋持久力などの用語の整理を含めて説明を加えることを考えています。

14. バランス訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	2	4	8	8.5	1

コメント

- ・通常、座位バランス、立位バランスを想像しますが、後に座位訓練、立位訓練が出てきます。区別が難しいように思います。おそらくもう少しダイナミックな訓練を指していると思いますが、「バランス訓練」とするなら後の「座位訓練、立位訓練」を「座位保持訓練、立位保持訓練」としてはどうでしょうか。

コメントに対する回答

ワーキンググループで検討いたしました。コメントいただいた通り、基本動作訓練の「座位訓練」「立位訓練」を「座位保持訓練」「立位保持訓練」に修正しました。

15. 上肢機能訓練（協調性・巧緻動作訓練を含む）：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	1	2	2	9	9	2

コメント

- ・この表記が分かりやすいと思います。異論ありません。
- ・協調性・巧緻性機能訓練以外の上肢機能訓練には具体的に何がありますか？
- ・16と混乱するのでは？
- ・16のその他も曖昧です。
- ・その他(---、---、----、など)として具体的な訓練法を明記しておいたほうが記入しやすいと

思います。

- ・イラストの入ったわかりやすい訓練法の冊子を作成していく必要があるのではないですか。
- ・大項目の前回答に記載.

コメントに対する回答

訓練コードの手引きを作成する際に、分かりやすい訓練内容の紹介をイラストまたは写真付きで詳細に解説する予定です。

16. その他の運動療法：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	2	2	9	9	2

コメント

なし

21. 温熱療法：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	4	1	10	9	0

コメント

- ・物理療法に包含ではどうでしょうか

コメントに対する回答

予備調査でも温熱療法は実施頻度が高かったため、中項目として独立した項目といたしました。

22. 寒冷療法：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	0	0	3	1	10	9	1

コメント

- ・物理療法に包含ではどうでしょうか？
- ・介護保険分野の現場で実施されているのを聞いたことがありません。

コメントに対する回答

日本リハビリテーション医学会のコアテキストに合わせて訓練コードとして採用させていただきます。

23. 磁気刺激治療：適切かつ合意 ⇒磁気刺激療法

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	3	0	0	1	2	0	9	9	4

コメント

- ・用語としては、磁気刺激療法では？21以下の項目の用語との整合性
- ・経頭蓋磁気刺激でしょうか？「その他」に含めてよいと思いますが。項目が出ている順番が、頻度順に近いように思われますが、少なくとも電気刺激や牽引の後でよろしいかと思えます。
- ・介護保険分野の現場で実施されているのを聞いたことがありません。
- ・21や22と合わせるのであれば磁気刺激療法にしてはどうか。

コメントに対する回答

磁気刺激療法に変更させていただきました。

24. 電気刺激治療：適切かつ合意 電気刺激療法

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	2	0	0	1	2	1	9	9	3

コメント

- ・用語として電気刺激療法では？23のコメントに同じ。
- ・介護保険分野の現場で実施されているのを聞いたことがありません。
- ・21や22と合わせるのであれば電気刺激療法にしてはどうか。

コメントに対する回答

電気刺激療法に変更しました

25. 牽引療法：適切かつ合意 ⇒削除

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	2	1	10	9	2

コメント

- ・牽引療法は医療保険で点数ついていますか？確認してください。もしついていないなら、介護分野だけ入れることとなりますが。
- ・その他の物理療法でも、具体的な名称を列挙すべきです。
- ・申請する人が勝手に物理療法主張するリスクが残っています。
- ・超音波などはここですか？
- ・介護保険分野の現場で実施されているのを聞いたことがありません。

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、臨床現場で誤解を生む可能性を勘案して、牽引療法は削除しました。

26 その他の物理療法：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	3	0	10	9	2

コメント

なし

コメントに対する回答

ワーキンググループで検討し、実施頻度が多い「振動刺激療法」を追加しました。

31. 寝返り訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	1	5	0	9	9	1

コメント

- ・起居動作で包含するのはどうか

コメントに対する回答

起居訓練を起き上がり訓練に変更し、分類を分かりやすくしました

32. 起居訓練：適切かつ不合意 ⇒ 起き上がり訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	3	0	0	2	2	1	7	7.5	5

コメント

- ・起居動作は一般的に「背臥位から起き上がり、立つまでの一連の動作」を指すと思います。この項目では「起き上がり訓練」の方が適切ではないでしょうか。
- ・起き上がり訓練？
- ・介護領域ではできるだけ分かりやすい言い回しがいいかと思います。
- ・少なくとも、用語集に載っている必要があります。今手元に用語集がありません。確認してください。"
- ・起居動作訓練がしっくりくる
- ・移乗練習が別途必要です。62にありましたが、どちらに含めるかは悩ましいです。
- ・起居動作訓練の方が良く使われるのでは。

コメントに対する回答

コメントいただいた通り、「起居」の用語自体が不適切だと判断し、分かりやすい表現にするため、「起き上がり訓練」に変更しました。

移乗訓練については、介護保険領域ではLIFEにおいてもBarthel Indexが用いられておりますので、分類を合わせるためADL訓練の中項目といたしました。

33. 座位訓練：適切かつ合意 ⇒ 座位保持訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	2	2	1	10	9	2

コメント

- ・上記に述べましたが、バランス訓練との区別が難しいように思います。「座位保持訓練、立位保持訓練」としてはどうでしょうか。
- ・座位保持訓練と使われる場合も多いと思います。

コメントに対する回答

座位保持訓練に変更しました

34. 起立訓練：適切かつ合意 ⇒ 立ち上がり訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	0	1	1	2	10	9	2

コメント

- ・椅子からと、床からは切り分けが必要です。
- ・32. 起居訓練と起立訓練の両方は必要ないのではないかと。

コメントに対する回答

用語を分かりやすくするため、「立ち上がり訓練」に変更しました。椅子からの立ち上がり
りと床からの立ち上がりについては小項目において検討いたします。

35. 立位訓練：適切かつ不合意⇒立位保持訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	2	3	1	2	7	8	5

コメント

- ・起立訓練があるので、ここは「立位保持訓練、立位動作訓練」などが良い気がします。
- ・立位訓練との違いをわかるようにすべきです。
- ・同義で使っている人もいます。
- ・その他の基本動作訓練の項目でも、具体的な訓練名を記載すべき。
- ・上記に述べましたが、バランス訓練との区別が難しいように思います。「座位保持訓練、立位保持訓練」としてはどうでしょうか。
- ・立位保持でしょうか。立位動作でしょうか。

コメントに対する回答

立位保持訓練に変更しました

36. その他の基本動作訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	2	2	9	9	2

コメント

なし

41. 歩行訓練（平地）：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	1	1	11	9	2

コメント

- ・屋内を想定していますか？ 屋内でも応用歩行は必要です。
- ・大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

屋内・屋外は区別していません。応用方向ではない平地歩行を想定しています。

42. 応用歩行訓練（屋外・坂道を含む）：**適切かつ合意⇒応用歩行訓練（段差・坂道・屋外を含む）**

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	1	0	0	2	11	9	2

コメント

- ・ () 内は段差・屋外・坂道を含む、としてはいかがでしょうか。
- ・ 屋外・坂道以外の応用訓練の具体名を入れるべき。この後のその他の歩行訓練と区別が困難。
- ・ 階段昇降をここに含める場合もあるように思います。

コメントに対する回答

分かりやすい表現とするため、応用歩行訓練（段差・坂道・屋外を含む）としました。階段昇降訓練については、Barthel Index に合わせて ADL 訓練の中項目としております。

43. その他の歩行訓練：**適切かつ合意**

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	2	1	11	9	1

コメント

なし

51. 見当識機能訓練：**適切かつ不合意 ⇒ 見当識訓練に変更**

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	1	2	2	4	0	5	7	6

コメント

- ・ 見当識の訓練が何になるのかがイメージができない
- ・ 見当識訓練でどうでしょうか
- ・ **「見当識訓練」**
- ・ 見当識訓練の方が名称としては一般的な気がします
- ・ 見当識訓練という言い方の方が多くのように思います。
- ・ 大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

ワーキンググループでの検討の結果，見当識訓練といたしました。

52. 注意機能訓練：適切かつ合意 ⇒注意訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	5	1	8	8.5	1

コメント

- ・現場では代償手段の導入が主です。
- ・大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

ワーキンググループで検討した結果，他の中項目と用語を統一するため，「機能」を抜いて「注意訓練」と変更しました。

53. 記憶機能訓練：適切かつ合意 ⇒記憶訓練に変更

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	1	0	3	0	5	1	5	7	4

コメント

- ・機能訓練という表現が限定的であり、代替手段獲得等を含むものがわかりにくい
- ・現場では代償手段の導入が主です。
- ・「記憶訓練」
- ・記憶機能という名称は一般的なのでしょうか
- ・大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

ワーキンググループで検討した結果，他の中項目と用語を統一するため，「機能」を抜いて「記憶訓練」と変更しました。

54. 失行訓練：適切かつ不合意 ⇒ 削除 ADL 訓練・IADL 訓練に含める

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	1	3	1	3	2	4	7	6

コメント

・この表現では、失行を訓練する、という意味になると思いますが、このような言葉は使用されているのでしょうか

- ・道具の手順を正したりする訓練でしょうか？内容があまり想像がつかないです。その他で良いと思いますが。
- ・言葉として馴染みにくい。上肢機能訓練でなく行為の障害として分割する必要性は？
- ・行為障害という表現もあります。（ ）で例を入れたらいかがでしょうか？
- ・現場では代償手段の導入が主です。
- ・失行訓練というのはあまり使われない表現だと思います。例えば、更衣失行の場合であれば更衣動作訓練を行うなどではないでしょうか？
- ・大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

コメントで頂いたように、ワーキンググループや班会議でも議論が尽きない項目でした。LIFE の支援コードを参考に項目立てしておりましたが、ご指摘のように ADL 訓練や IADL 訓練に包括できると考え、削除することとしました。

55. 視空間認知訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	5	3	6	8	1

コメント

- ・現場では代償手段の導入が主です。
- ・大項目の前回答に記載。

56. 遂行機能訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	1	4	2	7	8	2

コメント

- ・この後の項目のその他の具体的訓練名必要。
- ・現場では代償手段の導入が主です。
- ・あまり使わない印象を受けます。
- ・大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

手引きを作成する際に詳細については解説することを予定しています。

57. その他の高次脳機能訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	2	0	2	1	10	9	2

コメント

なし

61. 食事訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	2	0	1	2	1	9	9	3

コメント

- ・直接訓練、経口摂取訓練、摂食・嚥下訓練など
- ・訓練→練習
- ・「食事動作訓練」
- ・食事動作訓練の方が一般的？

コメントに対する回答

摂食嚥下訓練は別項目として独立しています。

食事動作は用語として動作に限定されており、実際の食事場面での訓練を含まない印象を与えることが予測されるため、より行為を包括的に捉えるため「食事訓練」としました。

62. 移乗訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	1	2	1	11	9	1

コメント

- ・訓練→練習
- ・基本動作訓練の中に分類される場合もあるのではないのでしょうか。

コメントに対する回答

Barthel Index の項目を参考に ADL 訓練の中項目としました。

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

63. 整容訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	3	2	10	9	0

コメント

- ・訓練→練習

コメントに対する回答

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

64. トイレ動作訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	1	2	1	11	9	1

コメント

- ・いわゆるトイレ動作（下衣操作）に限定するか、トイレ移乗も含めた用語を設定すべきかどうか
- ・訓練→練習

コメントに対する回答

本研究事業における「トイレ動作訓練」は便器への移乗、下衣操作、後始末を含みます。ワーキンググループでは他にも「トイレ訓練」「トイレ行為訓練」「排泄訓練」「排泄動作訓練」「排泄行為訓練」なども検討しましたが、Barthel Index の用語に合わせて「トイレ動作訓練」としました。

手引き作成の際に、定義や範囲、実際の訓練内容についてイラストや写真付きで解説する予定です。

65. 入浴訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	5	1	9	9	0

コメント

- ・訓練→練習

コメントに対する回答

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

66. 階段昇降訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	1	2	4	7	8	2

コメント

- ・ここは歩行訓練との棲み分けはどうしますか？また車椅子の方の移動や段差昇降訓練などはどこにいきますか？
- ・その他の歩行訓練に入れる人があるのでは。
- ・訓練→練習
- ・応用歩行の一つとして、歩行動作訓練の中に分類される場合もあるのでは。

コメントに対する回答

本研究事業では、Barthel Index の分類に合わせて歩行訓練とは別に ADL 訓練の中項目としました。車椅子移動については、「その他の ADL 訓練」に含むことを想定しており、手引書を作成する際に詳細を解説したいと考えています。

67. 更衣訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	3	1	11	9	0

コメント

- ・訓練→練習

コメントに対する回答

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

68. その他の ADL 訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	1	2	11	9	1

コメント

- ・具体的な訓練名必要

コメントに対する回答

訓練コードの手引書において具体的な訓練内容の例示することを予定しています。
車椅子移動訓練については、本項目に含めることを想定しています。

71. 調理訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	1	0	0	1	2	11	9	1

コメント

- ・訓練→練習。食事の準備・片付けは含まれますか？

コメントに対する回答

食事の準備から片づけまで含めることを想定しています。
手引き作成の際に解説を付け加えたいと思います。

72. 洗濯訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	4	4	6	8	1

コメント

- ・訓練→練習

コメントに対する回答

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

73. 掃除訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	4	3	7	8	1

コメント

- ・訓練→練習

コメントに対する回答

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

74. 買い物訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	2	2	10	9	1

コメント

- ・訓練→練習

コメントに対する回答

用語については、日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて統一を図っています。

75. 外出訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	2	4	1	8	8.5	2

コメント

- ・屋外移動の事を指すのでしょうか？
- ・訓練→練習
- ・本来外出とは、何らかの目的があつてなされるものなので若干違和感がある。

コメントに対する回答

本項目は Frenchay Activities Index を参考に作成しています。

外出訓練については、交通手段の利用を含まない外出を想定していますので、屋外移動を含めます。本研究事業の目的が生活期リハビリテーションの実態を調査することとなっていますので、社会参加を念頭に置いた外出訓練や交通手段の利用訓練の実施状況を分けて集計できるように意図しています。

76. 趣味訓練：適切かつ不合意 ⇒余暇活動のための訓練

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	1	1	1	3	0	4	2	3	7	6

コメント

- ・趣味活動を支援することも生活期リハビリテーションの一つですが、趣味訓練という記載

に違和感を感じます。

- ・趣味活動訓練、とした方が馴染みがある感じがします。
- ・意図は理解できるが趣味と訓練という言葉があまりにもマッチングが悪すぎる印象がある
- ・用語として不適切。趣味に関する訓練？
- ・言葉としては馴染みがない。本人にとっての趣味ではない知的活動、作業的活動をどうとらえるか。
- ・訓練→練習
- ・「趣味活動のための訓練」「余暇活動訓練」
- ・趣味と訓練という用語はなじまないと思います。

コメントに対する回答

ワーキンググループでも議論を重ねて検討した項目の一つです。本項目については、レクリエーションとは異なり、社会参加に繋げることを意図した「余暇活動のための訓練」を想定しています。コメントを参考に「余暇活動のための訓練」と変更しました。

77. 交通手段の利用訓練：適切かつ合意 ⇒交通手段利用のための訓練

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	1	2	4	8	8.5	1

コメント

- ・外出訓練ではだめか
- ・訓練→練習

コメントに対する回答

本項目は Frenchay Activities Index を参考に作成しました。本研究事業の目的が生活期リハビリテーションの実態を調査することであり、社会参加に向けて重要な訓練項目と認識しており、データ集積・分析ができる体制を取りたいと考えています。

78. 就労のための訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	2	3	2	7	8	3

コメント

- ・厳密には、就労に関する訓練は IADL 訓練ではないと思います。ご検討をお願い致します。
- ・この後の項目「その他ー」にも具体的な訓練名を

- ・就労訓練
- ・訓練→練習
- ・大項目の前回答に記載.

コメントに対する回答

Frenchay Activities Index の分類を参考に IADL 訓練の中項目としています. 本項目についてもワーキンググループで検討を重ねた項目となります. 日本リハビリテーション医学会のコアテキストでは「就労支援」はリハビリテーション支援に含まれますが, 介護領域のリハビリテーション手法手引き書では「就労のための訓練」となっていますので, そちらを採用しています.

79. その他の IADL 訓練 : 適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	1	0	2	2	10	9	1

コメント

なし

81. 言語訓練 : 適切かつ不合意 ⇒失語症に対する訓練

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	4	2	3	2	4	7	6

コメント

- ・82 に構音訓練があるので, この言語訓練は失語症の訓練の意味でしょうか?
- ・ST なら言語訓練が, 言語機能に対する訓練をイメージできるかもしれませんが, 他の職種だと () で失語症訓練なども入れたほうがイメージしやすいかもしれません。
- ・構音訓練等との違いが不明瞭
- ・「言語機能訓練」
- ・言語訓練がさす内容が失語症に対する訓練を想定しているのであれば失語症に対する訓練の方がわかりやすい
- ・大項目の前回答に記載.

コメントに対する回答

訓練内容をイメージしやすくするため, コメントに基づいて「失語症に対する訓練」に変更しました.

82. 構音訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	0	0	3	3	9	9	0

コメント

- ・なし

83. 音声訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	2	1	3	2	7	8	3

コメント

- ・81～83 の定義を作らないと混乱しそうです。
- ・どこまで細分化するか
- ・構音訓練と音声訓練の違いが良く判断できなかった。
- ・発声訓練とどちらが良いかご検討下さい。

コメントに対する回答

日本リハビリテーション医学会のコアテキストを参考に「音声訓練」としています。

84. 聴覚訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
0	0	0	0	2	0	5	0	8	8	2

コメント

- ・項目 85 で具体的な訓練名必要。
- ・聴覚訓練というのが想像できません。補聴器を合わせたりするのでしょうか？大項目の所で述べましたが「言語聴覚士」と専門領域に引っ張られている印象です
- ・どこまで細分化するか

コメントに対する回答

日本リハビリテーション医学会のコアテキストに基づいて「聴覚訓練」としています。

85. その他の言語聴覚訓練：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値

0	0	0	0	1	0	3	2	9	9	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

コメント

なし

91. 直接嚥下訓練：適切かつ合意 ⇒摂食嚥下訓練（直接訓練）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0	0	0	1	3	10	9	1

コメント

・摂食嚥下訓練(直接法)

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、日本リハビリテーション医学会のコアテキスト、総合力がつくりハビリテーション医学・医療テキスト、介護領域のリハビリテーション手法手引き書に基づいて「摂食嚥下訓練（直接訓練）」としました。

92. 間接嚥下訓練：適切かつ合意 ⇒摂食嚥下訓練（間接訓練）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0	0	0	1	4	9	9	1

コメント

・"摂食嚥下訓練(間接法) ⇒摂食嚥下訓練（間接訓練）

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、日本リハビリテーション医学会のコアテキスト、総合力がつくりハビリテーション医学・医療テキスト、介護領域のリハビリテーション手法手引き書に基づいて「摂食嚥下訓練（間接訓練）」としました。

93. その他の摂食嚥下訓練：適切かつ合意 ⇒削除

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	1	0	0	0	2	1	10	9	2

コメント

・直接法と間接法以外の摂食嚥下訓練とはどのようなもの"

- ・直接と間接で分けたら「その他」は存在しないのではないのでしょうか？全ての嚥下訓練は「直接」か「間接」に分類可能と思われます。

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、直接訓練と間接訓練以外のその他の摂食嚥下訓練は想定されないため削除しました。

101. 住環境整備・住宅改修：適切かつ合意 ⇒ 家屋評価・調整

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	1	0	1	0	0	2	10	9	3

コメント

- ・「住宅改修」だけでよいのでは。
- ・細分化が必要です。場所や方法の提示が必要です。
- ・大項目の前回答に記載。

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、日本リハビリテーション医学会のコアテキストを参考により分かりやすい用語とするため「家屋評価・調整」に変更しました。

細分化については小項目において検討いたします。

102. 自助具・福祉用具適応訓練：適切かつ合意 ⇒ 福祉用具・自助具の活用

1	2	3	4		5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0		2	0	0	3	9	9	3

コメント

- ・"適応訓練→使用訓練？この項目のみ訓練が出てきます。他の項目の名称と違和感をなくすために、「自助具・福祉用語の活用」などはどうですか？"
- ・必要でしょうか
- ・細分化が必要です。具体的に何を導入したのか。

コメントに対する回答

デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、日本リハビリテーション医学会のコアテキストを参考により分かりやすい用語とするため「福祉用具・自助具の活用」

に変更しました。

細分化については小項目において検討いたします。

103. 家族指導：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0	0	0	2	1	11	9	1

コメント

- ・細分化が必要です。ADL・IADL 毎の設定が必要です。

コメントに対する回答

細分化については小項目において検討いたします。

104. 介護相談・指導：適切かつ合意 ⇒ 支援制度の相談

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0	2	0	0	3	9	9	3

コメント

- ・ここには家族以外に、ケアマネジャーや併用介護サービス担当者などが含まれますか。
- ・介護指導は家族指導にあたるのではないですか？
- ・「支援制度の相談」（介護に関連する制度の相談というイメージです）？
- ・介護に関する方法であれば家族指導では？
- ・細分化が必要です。ADL・IADL 毎の設定が必要です。誰にが重要です。

コメントに対する回答

リハビリテーション支援における社会資源の活用支援を想定しています。デルファイ調査では「適切かつ合意」と判断されましたが、コメントいただいたようにイメージが難しい用語となっていたため、家族指導と明確に分類するため、「支援制度の相談」に変更しました。

105. その他の支援・調整：適切かつ合意

1	2	3	4	5	6	7	8	9	中央値	外れ値
1	0	0	0	1	0	1	1	11	9	2

コメント

曖昧です。具体的な内容が必要では？

コメントに対する回答

手引き書を作成する際に、具体的な例示を含めて解説することを予定しています。

中項目の訓練コードについて

- ・ADL 訓練の中に、移動訓練、コミュニケーション訓練が位置づけられていないことで、歩行以外の移動能力向上訓練、言語聴覚障害者の能力レベルの訓練が選択できなくなってしまうと思います。
- ・コードの下一桁のナンバリングを9に統一してはどうでしょうか。
- ・「自主トレ指導」「治療体操」「レクリエーション」を実施した際に、コードが選べない療法士がいる可能性があるため、項目の追加が必要かもしれません。
- ・細かく指摘しましたが、介護分野では、基本的な知識に関する学習の機会を持てなかった人も少なからずいます。曖昧な項目は避け、出来るだけ解説(別途、冊子の発行も考える)を入れて、使い易くし、この分類の普及に努めてはどうですか！
- ・「麻痺肢促通」のような項目はあった方が良くと思います。特に下肢の麻痺肢に対する訓練項目が収まるところが無さそうです。COPDの方や肺炎の方もおられると思うので、呼吸訓練もあった方が良くと思いました。

訓練コードの全体の構成など、全般的な内容に関する意見

- ・オリエンテーションの中で、個別と集団の区分も示されたと思います。診療報酬上に集団コミュニケーション療法が位置づけられているように、集団で行う訓練を踏まえたコードの設定をご検討いただけますと幸いです。
- ・コードはICIHをベースに作られているのでしょうか？
- ・物理療法では振動刺激や体外衝撃波の使用が増えていると思いますが、その他のままで良いか？
- ・回答を入力する前に大項目と中項目を一覧できるファイルがあれば、検討しやすいです。
- ・それぞれの項目と中項目のコメント欄に全体的なことも記載させてもらいました。改めて考えるととても難しいことですし、私達の業界が一丁目一番地もできていないことを痛感します。
- ・重複する項目は少ないように感じましたが、コードをどこまで細かく設定するかが課題と感じました。
- ・特にごさいません。全体を網羅していると思います。
- ・訓練のさらに具体的な内容までわからないので、選択に悩みました。また、最近のITやAIなどを用いた訓練も増えてきていますが、中には、いくつかの訓練を組み合わせるものもあるように思います。項目に当てはまらないものがあるかどうか判断できませんでしたが、11として「その他の訓練」も必要かもしれません。

- ・ご苦労様でした。
- ・コードの大項目は全て2桁にしておいた方が処理がしやすいと思います。つまり運動療法は1ではなく01です。

コメントに対する回答

多くの示唆に富んだコメントをいただきありがとうございました。いただいたコメントを参考にワーキンググループおよび班会議で議論を重ねました。本研究の目的が生活期リハビリテーションの実態を明らかにすることであり、そのための訓練コードを作成することであるため、簡潔で分かりやすく用語で網羅的な分類を意識しましたので、一部のコメントには対応できていないこともあります。

訓練内容の詳細については来年度の研究事業で手引き書を作成予定です。手引き書では訓練項目に含まれる具体的な内容については写真やイラスト付きで分かりやすく解説することを予定しています。